

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望＝ドル円は徐々に上値を追う展開か

[11月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		11月8日～11月12日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	113.44	114.30(12)	112.73(9)	114.23	+0.82
ユーロ・ドル	1.1553	1.1608(9)	1.1436(12)	1.1442	-0.0125
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	29,609.97	-1.60	日本10年債利回り	0.076	+0.016
ダウ平均株価	35,921.23	-406.72	米10年債利回り	1.549	+0.098
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 15日 日本第3四半期国内総生産（GDP）1次速報
 - 英11月ライトムーブ住宅価格
 - 中国10月小売売上高、中国10月鉱工業生産指数
 - 日本9月鉱工業生産指数
 - ユーロ圏9月貿易収支
 - カナダ9月製造業出荷
 - 米11月NY連銀製造業景気指数
 - カナダ9月卸売上高
- 16日 英10月雇用統計
 - ユーロ圏第3四半期域内総生産（GDP）確報値
 - 米10月小売売上高、米10月輸入価格指数
 - 米10月鉱工業生産・設備稼働率
 - 米9月対米証券投資
- 17日 NZ第3四半期生産者物価指数
 - 日本10月貿易収支
 - 日本9月機械受注高
 - 英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、英10月小売物価指数
 - ユーロ圏10月消費者物価指数確報値
 - 米10月住宅着工・建設許可件数
 - カナダ10月消費者物価指数
- 18日 米新規失業保険申請件数
 - 米11月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米10月景気先行指数
- 19日 日本10月消費者物価指数
 - 独10月生産者物価指数
 - 英10月小売売上高
 - ユーロ圏9月経常収支
 - カナダ9月小売売上高

【前回のレビュー】FOMCではテーパリング開始は決定したものの、利上げ時期のヒントはなく、ドル円を方向付けような内容とはならなかった。今後は米経済指標の動向や日米の株価の動きがドル円の動きに影響を与える要因となり、そうした中、ドル円は113～114円台でのレンジ相場が継続するとした。

【米消費者物価指数を受けてドル高基調へ転換】

11月2～3日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）で、量的緩和の縮小

(テーパリング)を決定した後に米長期金利は低下傾向を見せて、9日に米10年債利回りは一時1.41%台まで低下した。ドル円は一時112.73近辺まで下落した。

米連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長候補として名前が上がっているハト派的とされるブレイナード理事がバイデン米大統領と面談を行ったとの報道も米長期金利の低下の一因との見方も広がった。

4日に英中銀(BOE)は政策金利の据え置きを決めた。利上げの可能性もかなり高いとみられている中、英金融政策委員会(MPC)の9名中7名が据え置きに賛成しており、据え置きとなるにしてももっと僅差で据え置きになるとみられていただけに、英長期金利の低下とともにポンドが急落した。日本以外の主要国が量的緩和の縮小や停止など金融正常化へ向かう中、市場の早期利上げ期待に水を差す格好となった。

ただ、こうした米長期金利の低下やドル売りの動きは10日に一変する。この日発表された10月の米消費者物価指数は前月比+0.9%、前年比+6.2%とそれぞれ事前予想(前月比+0.6%、前年比+5.9%)を上回った。コア指数は前月比+0.6%、前年比+4.6%となり、こちらも事前予想(前月比+0.4%、前年比+4.3%)を上回った。

前年比+6.2%の上昇率は31年ぶりの高水準となった。こうした状況から、FRBが主張している「インフレは一時的」との見解を維持するのが難しくなり、早期に利上げに動く見方から、前日9日に1.44%台だった米10年債利回りは一気に1.58%台まで上昇した。ドル円は113円台前半から114円台前半まで大きく上昇した。

インフレ警戒感を背景とした米長期金利の上昇傾向やドル高の地合いはしばらく継続するとみられる。ドル円は114円近辺での振幅を見せながら、徐々に上値を追う展開となり一段高を試すこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、113.00～115.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本第3四半期国内総生産(GDP)1次速報、日本9月鉱工業生産指数、米11月NY連銀製造業景気指数、16日に米10月小売売上高、米10月輸入価格指数、米10月鉱工業生産・設備稼働率、米9月対米証券投資、17日に日本10月貿易収支、日本9月機械受注高、米10月住宅着工・建設許可件数、18日に米新規失業保険申請件数、米11月フィラデルフィア連銀景況指数、米10月景気先行指数、19日に日本10月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルは下値を探る展開か】

10日の米消費者物価指数が予想を上回ったことを受けて、ドル買いの動きとなつて、ユーロドルは1.16ドル手前から大きく値を崩して1.15ドルを割り込んだ。11日以降も軟調な流れが続いている。

11日に発表された欧州中央銀行(ECB)経済報告によると、「短期的には、供給ボトルネックとエネルギー価格上昇が、回復のペースとインフレの見通しに対する主要なリスク」「ユーロ圏経済は勢いはある程度緩和されたが、引き続き力強く回復」との見解を示した。さらに「現状の高インフレ局面は当初予想よりも長引く可能性も、来年中には低下と予想」しており、ECBもインフレに対して、来年には低下に向かうとの見方を示している。

ユーロドルは1.16手前を中心とするもみ合いが続いた後に大きく値を崩している。レンジ内でのみみ合い後にレンジから下放れした格好となっている。ボリンジャーバンドのバンド幅が収縮した後に拡大に転じており、バンド幅を広げながら下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1300～1.1600ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日に英11月ライトムーブ住宅価格、中国10月小売売上高、中国10月鉱工業生産指数、ユーロ圏9月貿易収支、カナダ9月製造業出荷、カナダ9月卸売上高、16日に英10月雇用統計、ユーロ圏第3四半

期域内総生産（GDP）確報値、17日にNZ第3四半期生産者物価指数、英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、英10月小売物価指数、ユーロ圏10月消費者物価指数確報値、カナダ10月消費者物価指数、19日に独10月生産者物価指数、英10月小売売上高、ユーロ圏9月経常収支、カナダ9月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。